令和7年度吹田市立総合福祉会館　生活介護事業自己評価

法人名　(株)オールケアライフ
評価対象期間　　令和7年4月1日～令和8年3月31日

評価に関する例
A：達成できた　B：概ね達成できた　C：あまり達成できなかった

	評価項目		記載者　(株)オールケアライフ　小田 成都子 確認者　館長　保木本　薫 自己評価設定（令和7年4月1日） 評価設定	自己評価達成状況（令和8年3月31日） 事業者の評価	記載者　(株)オールケアライフ　小田　成都子 確認者　館長　保木本　薫 主な取組み内容	吹田市の評価（令和8年11月10日） 市の評価	記載者　館長　保木本　薫 確認者　館長代理　堀　一也 評価内容
1管理運営体制	1　計画	事業運営の組織的・計画的な実施	「多くの人々のお役に立てるよう、自分に何が出来るか、チームとして何が出来るか常に考え、協力し合える環境であること」の法人基本理念をもとに、他事業所との連携を図り、利用者やその家族の「幸せ」を追求していきます。また、総合福祉会館の生活介護事業を多くの方に知ってもらい、新規利用者の確保に繋げます。	A	弊社の各事業所が一つのチームとして機能するよう互いに協力・連携を図りながら、利用者・家族の課題や不安に寄り添い、応えることができた。併せて、家族同士での交流促進による家庭負担の軽減や利用満足度の向上にも努めた。これらにより、見学希望者や新規利用者1名の獲得に繋げることができた。	B	職員内で理念を共有しながら、具体的な事業計画に基づいて事業を進められていた。 サービスの向上により新規利用者を獲得できたが、年間の延べ利用者数は減少した。
	2　人材育成	福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画と実施	人材確保策として、ハローワーク主催の面接会、その他イベントへ参加し、障がい福祉の魅力を発信します。また、実習生を積極的に受け入れ、人材を確保に繋ぎます。 入職後についても、OJT担当者や上司との定期面談や悩みごと等の課題に対し、早期解決を図ります。	B	ハローワーク主催の面接会、その他イベントへ計6回参加し、障がい福祉の魅力を発信し、人材確保に取り組んだ。実習生の受け入れには繋がらなかったが、引き続き関係機関と連携しながら周知や体制整備を進めていく。 未経験の方でも安心して働けるよう、先輩職員と一緒に業務にあたり、即座に疑問や課題が解決できるよう取り組んだ。	B	求職者向けイベントへの参加等により職員確保に努められていた。職員に対するフォロー体制の構築や計画的な研修により、定着にも注力できていた。
	3　研修	職員の知識と技術の向上に関する計画の策定と実施	年間の研修計画をもとに、講師を各スタッフへ割り当てることにより、自身で調べた内容を発表できる場を設けます。 例)アンガーマネジメント チームワークを深める 障害者虐待防止・権利擁護 医療的ケア 介護技術等を予定	A	弊社の各事業所が合同開催する月次会議において、講師担当のスタッフが担当テーマを発表し、全員が一体となって学習することができた。テーマ選定に関する担当者との事前協議では、この内容を深掘りするよう促すことで、自発的な知識・技術の学びを促進することができた。	A	専門性を高める研修を複数実施できている。意欲的な学習を促す仕組みが設けられている。
	4　個人情報	個人情報の適切な管理と、職員等への指導	個人情報を含めたデータは、クラウド管理を行っており、アクセス権限も設けているため、外部へのデータの持ち出しは出来ません。 紙媒体による保管に関しては、鍵付き書庫で保管し、一般職員へは定期的に個人情報保護に関する事例等を伝えていきます。	A	個人情報書類は鍵付きキャビネットでの保管、データ関係は社内ネットワーク内でのみ閲覧可能とし、外部への持ち出しができないよう管理を徹底した。 また、職員に対して定期的に守秘義務・個人情報保護について周知し、意識して業務にあたるよう働きかけた。	A	事業所として個人情報の適切な管理を遂行できている。
	5　文書管理	利用者の個別支援や福祉サービスの実施状況の記録が適切に記録され、職員間で共有されている。	朝礼・終礼での申し送りを行い、その記録を共有します。また、各会議の議事録を取り、職員間で共有します。	A	朝礼・終礼で申し送りと併せ、前営業日の議事録の確認・共有を徹底した。	A	個別支援計画を適切に遂行し、利用者の支援経過、課題等も記録できている。
	6　事務報告等	事務報告を適切に行う。	事務報告を含め、各種報告は毎月の定例会議にて行います。緊急を要すると判断する内容や事故等のインシデントに関しては、即時報告いたします。	A	月次会議での報告に加え、緊急を要する事案は迅速に弊社本部及び吹田市への報告を実施した。	A	会議では、施設の運営状況、利用者の健康状況等を適切に報告できていた。
	7　安全なサービス	安心・安全なサービスを提供するためのリスクマネジメント	法人内で毎月実施している安全衛生管理委員会にて、事故やヒヤリハット報告内容を共有し、第三者的な目線によるリスクマネジメントを行います。	A	毎月の安全衛生管理委員会にて各事業所の事故・ヒヤリハット案件や改善策を共有し、移乗介助方法(動線確保含む)やベッド上での姿勢などの業務改善により、リスクマネジメント・危険回避に役立てた。人命を預かる責任や安全意識をスタッフ全員で共有・向上させ、安全なサービス提供に努めた。	A	事故・ヒヤリハットが共有され、適切な対策を取り入れていた。

令和7年度吹田市立総合福祉会館　生活介護事業自己評価

法人名　(株)オールケアライフ
評価対象期間　　令和7年4月1日～令和8年3月31日

評価に関する例
A：達成できた　B：概ね達成できた　C：あまり達成できなかった

記載者　(株)オールケアライフ　小田 成都子
確認者　館長　保木本　薫
自己評価設定（令和7年4月1日）

記載者　(株)オールケアライフ　小田　成都子
確認者　館長　保木本　薫
自己評価達成状況（令和8年3月31日）

記載者　館長　保木本　薫
確認者　館長代理　堀　一也
吹田市の評価（令和8年11月10日）

	評価項目		評価設定	事業者の評価	主な取組み内容	市の評価	評価内容
1管理運営体制	8　緊急対応	災害時における利用者の安全確保と組織的な体制	年間の計画として、「火災避難訓練」「地震(災害)訓練」「防犯訓練」を毎月計画的に実施します。 例)停電時の対応等 また利用者家族には、SNSによる迅速な安否確認を進めます。	A	停電訓練では必要物品の見直し、防犯訓練では「さすまた」や催涙スプレー等の使用方法の確認、避難訓練では動線確認などを行った。 利用者の家族に対し、SNSでのやり取りができるよう、連絡先の交換を行った。	A	様々な訓練や家族との連絡交換により、有事の際の安全確保に努めることができた。
	9　連携	他関係機関との連携体制の構築と実施	相談支援事業所をはじめとする関係機関との連携により、24時間365日を見据えた支援を構築していきます。	A	利用者・家族の懸案事項に対して関係機関と連携し、迅速な対応を心掛けた。また、弊社の各事業所と連携し、多角的な解決策の提案にも努めた。	A	利用者家族の困りごとに対し、他事業所や相談支援と連携して対応できていた。
2　事業運営及びサービスの提供	1　健康	利用者の心身の健康の維持・増進のための支援	利用者やその家族を取り巻く環境にも気を配り、利用時はもちろんのこと、利用していない日や時間外の状況の把握にも努めます。 看護職員と生活支援員との連携を密にとり、利用時の変化等へ迅速に対応します。	A	感染症の流行前に研修を行い、対策を徹底した。また、利用者の体調不良により通所を見合わせてる期間も、本人・家族のためにできる事がないか、家庭生活が過度な負担となっていないか、との視点から、他事業所と連携しながら状況の把握に努めた。	A	看護職員を複数配置するなど、利用者の健康管理に関して迅速に対応できていた。利用者家族とも密な情報交換ができていた。
	2　利用者ニーズ	利用者のニーズに応じた活動や日常生活の充実のための支援	自己決定支援の視点を取り入れ、利用者のニーズを反映した活動内容やイベントを行います。 また「生活介護になると横のつながりが希薄になってしまう」という懸念に対し、家族交流会を開催し、ご家族同士の繋がりの場を設けます。	A	レクリエーション担当者を配置し、毎日異なる活動を実施しながら、利用者ごとの興味・関心の様子を観察し、意向に沿うよう企画を進めた。季節のイベント(外出、クリスマス会)は、家族も参加できる内容として開催した。 弊社の各事業所が合同で、利用者の家族交流会を11月に開催した。総合福祉会館の対象者は不参加であったが、情報交換等の場として有用であるため、今後も参加を呼び掛けていきたい。	A	多様な活動をとおして、個々のニーズに合った取組を実践できた。他事業所とも連携し、家族同士の交流も促進できていた。
	3　利用者満足度	利用者満足度の向上を目的とした取り組みを行う。	利用者満足度向上に向けた「運営アンケート」を実施します。結果は吹田市と共有した上で、利用者及び家族の満足度向上に努めます。	A	運営アンケートを実施し、ニーズを把握した。また、モニタリングやイベント時に吹田市職員と直接話をする場を設け、満足度向上に努めた。	A	利用者や家族の目線に立ち、個々の特性に応じた支援が実施できた。
	4　利用者対応	苦情、要望に対し迅速かつ適切に対応	苦情対応の体制は整備していますが、何より「些細なことでも言いやすい関係性」の構築を図り、迅速に適切に対応します。	A	送迎時の申し送り、SNSのやり取りでのコミュニケーションを通じ、普段から信頼関係を構築し、気軽に話しやすい環境作りに努めた。例えば、日頃から送迎時のご家族の様子を気にかけていたことにより異変に気付き、事前に対応方法を検討していたことで誠意を込めて迅速に対応することができた。	A	利用者や家族との関係性の構築に努め、きめ細かに対応できていた。
	5　コンプライアンス	提供する福祉サービスの実施についての利用者説明	法令に則り、個別支援計画への説明を含め、サービス内容に関する些細な変更点も事前に説明(書面による)、同意を得ます。	A	サービス内容や支援方法等の変更に際し、迅速に家族へ説明を行い、同意を得た上で適用した。	A	支援内容や手続等について丁寧な説明ができていた。